『tanggu meyen(一百条)』のオイラート文語訳について

著者	栗林　均，斯欽巴図
雑誌名	東北アジア研究
巻	13
ページ	127-168
発行年	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/44075

『tanggū meyen（一百条）』のオイラート文語訳について

A Written Oirat Translation of tanggū meyen(*The Hundred Chapters*)

栗林　均 (Hitoshi KURIBAYASHI)*
斯欽巴図 (SECHINBAT)**

キーワード：tanggū meyen（一百条）、オイラート文語、トド文字、満洲語
Keywords: tanggū meyen, Written Oirat, Todo Script, Manchu language

1．『蒙古托忒彙集』について

『蒙古托忒彙集（もうことどいしゅう）』は、清朝の嘉慶2年（1797年）の序をもつモンゴル語・オイラート文語・満洲語・漢語の4言語対照語彙集である。編者は、満洲語・漢語・モンゴル語の3言語対照辞典として人口に膾炙した『三合便覧』の編者としても名高い富俊である（注1)。同書は全8冊からなる写本で、中国北京の故宮博物院図書館に蔵されている孤本であるが、中国国家図書館と北京大学図書館にはそれぞれ青写真による複製本が所蔵されており、北京大学図書館所蔵本には「托忒大字彙」という題が付されている。

『蒙古托忒彙集』に関する情報は満洲語図書目録（注2）やモンゴル語図書目録（注3）に載録されているが、春花［2008：314-317］で詳しい書誌情報を知ることができる。目録類の中には同書の題名を「蒙古托忒彙書」とするものがあり、また北京大学所蔵の複製本の題名は「托忒大字彙」となっているが、満洲語・モンゴル語・オイラート文語・漢語が併記された同書の序には、次のように名づけられており、これを正式な題名と見なすことができる（注4)。

満洲語：monggo tot hergen i acamjaha isabun

モンゴル語：mongγul tod üsüg-iyer neyileldügül=ü=gsen čuγlalγ_a

オイラート文語：mongγol tod üǰüg+iyin neyilüül=sen čuqluulγa

漢語：蒙古托忒彙集

同書は、上述のように8冊からなるモンゴル語、オイラート文語、満洲語、漢語の対訳語彙集であるが、第1冊の巻頭には富俊による序（13丁25頁)、トド文字の字母表（2丁

*　東北大学東北アジア研究センター
**　東北大学大学院環境科学研究科博士後期課程

3 頁)、オイラート文語のテキスト（6 丁 12 頁）が付されている。本体の語彙集は、モンゴル語の文語（モンゴル文字表記）と口語（満洲文字表記)、オイラート文語（トド文字)、満洲語（満洲文字)、漢語（漢字）の 5 種類の単語が 1 行に並べられている。つまり、1 行は 5 段からなり、上の 5 種類の単語がそれぞれの段に置かれている。1 頁に 8 行が配され、最上段のモンゴル文語の単語は字母順（十二字頭順）に配列されている。見出し語の字母順の配列と対照語彙を一行に並べる体裁は、『三合便覧』に範を取ったものである。

富俊による『蒙古托忒彙集』の「序」には、同書を編纂した経緯が述べられている。中でも興味深いのは、オイラート文語を新たに加え、配列順をモンゴル文語の字母順にした理由について書かれていることである。次は、「序」の全訳である（注 5)。

(1a)古の六書の作りを考えれば、元来、諧声・仮借・転注等の(1b)方法がある。その基準はすべて同じである。それで文字が同じ（同文）と言った。満洲語とモンゴル語の文字は少しの違いはあるが、(2a)大体似通っている。かつて満洲語は言葉が多く、若干の古い書物や新しく定めた語に(2b)出会うと、初学者は十分に理解することができず、一時に調べようとしても手立てが無かったので、したがって私の(3a)父の意志を継いで三合便覧を編集し、満洲語の新語・旧語を(3b)集めて十二字頭の順に配列して編纂したことにより、文字（語）を調べよう(4a)とする者には、極めて容易になった。己亥（1779）の年に富俊は蒙古進士になり、礼(4b)部額外主事となった後、常に余暇にあって、モンゴル語の単語は甚だ多く、調べ探すのは容易で(5a)ないと思われ、モンゴル語を同様に十二字頭の順に並べて編集し、調べる便宜に供した。(5b)ただ、モンゴル語の中にはまた一種のトド文字がある。（これは）元来、ジュンガルの厄魯特族の文字である。我が(6a)国がジュンガル厄魯特を平定した後、投降した多くの部落を伊犂（イリ）や科布多（ホブド）等の地に住まわせた。それぞれの登庁、(6b)参朝の当番があるため、常に文書が往来している。その文字を知る者は極めて少ないのであった。乾隆(7a)47（1882）年、軍機大臣らが(7b)奏上して、京師にトド学校を設立し、蒙古八旗からそれぞれ 1 名ずつ学生を置いて特にトド(8a)文字を学ばせた。幼少から書を読み学びながら終えて、用に備えたことは制度として甚だよいことである。丙辰（1796）の(8b)年の春、富俊は科布多（ホブド）参賛の命を奉じたので、(9a)辺疆は平穏で政務は多くないが、敢て怠ることなく、事務を処理した余暇にトド文字をよく知る(9b)者を捜し求めて、共に究め明らかにしてトド文字で翻訳を行った。またおそらく後学の者たちが読み(10a)にくいので、一番上の列にモンゴル文字を、その次にモンゴル語の発音に合わせて書いた満洲文字を、また次にトド文字を、さらに次に(10b)満洲語を、一番下に漢語を置いて、行ごとに 5 つの欄として、それぞれを対照し確かめ、2(11a)年の間で終わらせた。思うに、モンゴル文字には圏点がなく、口授で教えなければモンゴル語の発音を習得する(11b)

ことはできない。トド（tod）というのは、即ちモンゴル語の todurqai（明白）、満洲語の getuken（明白）という語である。よってこれを蒙古托忒彙集（mongγul tod üsüg-iyer neyileldügül=ü=gsen čuγlalγ_a）(12a)と名づけた。これで、学ぶ者が書物を開いてただちに明らかに知るために些かの益と(12b)なるだろう。このために序を記した。嘉慶丁巳孟春（1797年1月）(13a)嵇巌富俊

ここでは、主に『三合便覧』をもとにして、モンゴル語を字母順に並べて同書を編纂したこと、乾隆 47（1882）年にトド学校が設立されてオイラート文語の学習が必要なこと、自ら丙辰（1796）年にホブトへ赴任してオイラート文語に接する機会を得て編纂したこと、などが説明されている。

『蒙古托忒彙集』は、稀書であることと関連して、その情報はこれまで図書目録の中の僅かな情報に限られていたが、近年、春花［2006 ; 2008］および暁春［2006 ; 2007］によって同書の詳しい書誌情報と、満洲文字で表記されているモンゴル語口語の特徴に関する論考が公刊されて、研究の端緒が開かれたと言うことができる。それらの論考にも指摘されているように、同書はモンゴル文献学・モンゴル語辞書編纂史の観点からは字母順に配列された最も初期の辞書として貴重な資料であり、またモンゴル語学・モンゴル語史の観点からは18世紀末の満洲文字表記によるモンゴル語口語の資料、さらに同時代のオイラート文語の語彙資料として質的にも量的にも高い価値をもっている。

2.「トド文字一百条」について

今回本稿が取り上げるのは、『蒙古托忒彙集』の第1冊に収められている6丁（12頁）のオイラート文語のテキストである。このテキストについては、わずかに《中国蒙古文古籍总目》［1999 : 1180］で触れられているだけで、他の図書目録にも、春花［2006 ; 2008］、暁春［2006 ; 2007］らの研究でも言及されていない。トド文字の字母表の最後にオイラート文語で書かれた üri=qsen okin+āsu ōkü ide=nem ge=kü üliger（招いた娘から脂身を食べるという物語）という一行が付されており、一見したところ、これは後続するオイラート文語テキストの題名を表しているように見える（注6）。しかし、実際はこれはテキストの内容と何の関係もない。

斯欽巴図・栗林均［2008］は、このオイラート文語テキストが満洲語口語学習書『tanggū meyen（一百条）』の中の7話の翻訳であることを明らかにした（注7）。

『tanggū meyen（一百条）』は、清朝乾隆帝の時代に編纂されたと考えられる満洲語口語学習書で、対話形式の満洲語会話文の百話（＝百条）を集めたものである。4巻からなる木版本が通行本として知られるが、序・跋はなく、著者、刊行年は不明である（注8）。満洲語による本文の内容は、「満洲語の学習」「文武の勧め」「飲酒・漁色・浪費の戒め」「交

友関係」「家庭生活」「処世訓」「人の評判」「病気見舞い」等々、当時の満洲八旗人の日常生活のさまざまな場面に及んでいる（注 9）。

オイラート文語のテキストの 7 話は、『tanggū meyen（一百条）』の第 51 話、第 3 話、第 90 話、第 39 話、第 1 話、第 42 話、第 37 話にあたる。本稿では、このオイラート文語訳テキストを「トド文字一百条」と呼ぶ。「トド文字一百条」の 7 話を、配列順に第 1 話から第 7 話として、それぞれの内容を示すと次のとおりである。

第 1 話：学問と読書の必要性についての訓話

第 2 話：学校、先生、書物など満洲語の勉強の現状に関する会話

第 3 話：満洲語の不勉強に対する先生の訓話

第 4 話：満洲語と漢語の翻訳および考試を勧める会話

第 5 話：満洲語の必要とその教授の依頼

第 6 話：満洲語の会話について

第 7 話：満洲語学習者を励ます会話

『蒙古托忒彙集』の本文（語彙集）の部分には丁番号が振られているのに対して、「トド文字一百条」には丁付けがない。また、『蒙古托忒彙集』の「序」と本文は 1 頁に 8 行が配されているが、「トド文字一百条」の部分は 1 頁に 10 行が配されている。これを見ると、『蒙古托忒彙集』の「序」と本文と、「トド文字一百条」は別々に作成された可能性がある。その一方で、「序」、「トド文字字母表」、「トド文字一百条」の終わりには、それぞれ「紹衣堂」（富俊の堂号）と「富俊印」の印が押されていることから、これらはすべて富俊の撰によるものと考えられる。

このようなオイラート文語のテキストがなぜ作成され、『蒙古托忒彙集』に収録されたのかという理由に関しては、同書の序の中で、乾隆 47（1882）年に軍機大臣らが奏上して京師にトド学校が設立されたとあることに関連していると考えられる。オイラート文語の学習のために、満洲語の学習書である『tanggū meyen（一百条）』が翻訳されて、教科書として使われたのではないだろうか。

ところで、『蒙古托忒彙集』の編者富俊は、これ以外にも『tanggū meyen（一百条）』と深い関わりをもっている。乾隆甲寅（1794）年に富俊は『初学指南』というモンゴル語の口語学習書を上梓しているが、それは『tanggū meyen（一百条）』のモンゴル語訳（満洲文字表記）と白話体漢文を対訳の形で対照したものである。また、道光 10（1830）年には、『三合語録』という類書を出版しているが、これは『tanggū meyen（一百条）』の満洲語とモンゴル語訳（満洲文字表記）に白話体漢文を加えた 3 言語対訳の学習書である。このように、満洲語の学習書『tanggū meyen（一百条）』を手本にして、モンゴル語の学習のためにモンゴル語に翻訳したことと、オイラート語の学習のためにオイラート文語に翻訳した

ことは、軌を一にしている。

「トド文字一百条」、『初学指南』、『三合語録』の関係は、それらがすべて『tanggū meyen（一百条）』を原本としているだけにとどまらない。これら 3 書の各話（条）の順序は、『tanggū meyen（一百条）』と大きく異なっている。『初学指南』と『三合語録』では、各話（条）の順序は同じである。「トド文字一百条」の7話は、順に『初学指南』と『三合語録』の第4、5、6、7、1、2、3話に相当する。

『初学指南』および『三合語録』に収録されているモンゴル語の訳文は、いずれも満洲文字で表記されたモンゴル語の「口語」である。そのモンゴル語は、伝統的なモンゴル文語の綴りと大きく異なっているだけでなく、現代のハルハ方言、チャハル方言、ホルチン方言等とも異なり、それらから推測することが困難な語形や語尾が散見される。このように、『初学指南』と『三合語録』に記されている「口語」が時代的、地方的、文体的にどのような言語実態を反映しているのかは、不明であった。これに関して、栗林均・斯欽巴図［2009］は、「トド文字一百条」が『初学指南』および『三合語録』の成立に深く関わっていることを明らかにした。そこでは、それぞれのテキストを比較して、『三合語録』のモンゴル語は「トド文字一百条」のオイラート文語を満洲文字で表記しようとしたものであること、また『初学指南』のモンゴル語は、「トド文字一百条」のオイラート文語に基づきながら、オイラート文語に特徴的な表現（語形や語尾）を内地のモンゴル人に分かりやすく置き換えてできたものであるという見解を提示した。

このように、「トド文字一百条」は、『初学指南』と『三合語録』の成立過程、およびそれらのモンゴル語の特徴を究明する上で欠かせない資料である。しかし上掲論文（栗林均・斯欽巴図［2009］）では、紙数の制限により、テキストの比較のために示したのは「トド文字一百条」の一部のローマ字転写にすぎない。これからの研究にとって必要なことは、「トド文字一百条」の実態を明らかにすることである。本稿では「トド文字一百条」すべての影印を掲げ、そのローマ字転写と日本語訳を示し、そこに使われているオイラート文語の特徴をまとめる。影印は、北京大学図書館所蔵の青写真複製本（『托忒大字彙』）をデジタル撮影して、ネガ・ポジを反転させたものである（注 10）。

「トド文字一百条」のオイラート文語は、18 世紀後半に北京でオイラート語の教授・学習のために書かれ、使われたものとみなすことができる。1648 年にザヤ・パンディタによって創られたトド文字とオイラート文語は、今日に至るまでその字母の種類や、字形、正書法の面で様々な変化が生じてきたことは、サンボードルジ・橋本勝［2005：63-124］、伦图［2003:76-87］などによって論じられている。特に、18 世紀の後半はこうした変化の境目と見なされていることから、同時代のオイラート文語の資料としての価値も大きいと考えられる。

3．トド文字の字母表について

上述のように、『蒙古托忒彙集』の第1冊には、富俊による「序」と「トド文字一百条」の間に2丁3頁の「トド文字字母表」が置かれており、同書で使われているトド文字の字形と配列順を知ることができる。

次頁から字母表の影印（図1～3）を、次にそのローマ字転写を示す。（注11）字母表に丁付けはないが、図1～3は、それぞれ第1頁表（1a）、裏（1b）、第2頁表(2a）である。

【字母表のローマ字転写】

1a（図1）

1	a	e	i	o	u	ö	ü.
2	na	ne	ni	no	nu	nö	nü.
3	xa	xo	xu	γa	γo	γu	
4	ba	be	bi	bo	bu	bö	bü.
5	pa	pe	pi.	sa	se	si	
6	so	su	sö	sü.	ša	[še]	ši
7	šo	šu	šö	šü.	ta	te	ti
8	to	tu	tö	tü.	da	de	di
9	do	du	dö	dü.	la	le	li
10	lo	lu	lö	lü.	ma	me	mi
11	mo	mu	mö	mü.	ča	če	či

1b（図2）

1	čo	ču	čö	čü.	ǰa	ǰe	ǰi	
2	ǰo	ǰu	ǰö	ǰü.	ya	ye	yi	
3	yo	yu	yö	yü.	ke	ki	kö	kü.
4	ge	gi	gö	gü.	ra	re	ri	
5	ro	ru	rö	rü.	pha	phe	phi	
6	pho	phu	phö	phü.	fa	[fe]	fi.	
7	ā	an	ab	ayin				
8	ai	au	ang					
9	ar	am	al	aq				
10	ad	as	aš.					

2a（図3）

1	ña	ñe	ñi.	【niya niye nii】
2	ḍa	ḍe	ḍi.	【ža že ži】
3	ha	ho	hu.	【ha ho hū】
4	ṅa	ṅo	ṅu.	【angga engge onggo】
5	ža	že	ži.	【ža ša že še ši ži】
6	ka	kha	ga.	【... 】

7 üri=qsen okin+āsu ōkü ide=nem ge=kü üliger

図の影印に見るように、字母表は3～4文字（音節）ずつの短冊を貼り合わせたものである。1a（第1頁表）の1～4行と5行目以降で、母音字 a e i と o u ö ü が上下に入れ替わっているが、これは5行目の下段に po pu pö pü が入るはずだったものと考えられる。

上の字母表の中で、1b（第1頁裏）の7～10行は、音節末に立つものである。

2a の第1～6行は外来語音の表記に用いられる文字で、それぞれの行の下部に満洲文字で読み方を示す書き込みがある。

2a の第7行(「招いた娘から脂身を食べるという物語」)は、昔話の題名のようであるが、前後と何の関係もない一行である。

図１．トド文字字母表（1a）

1　2　3　4　5　6　7　8　9　10　11

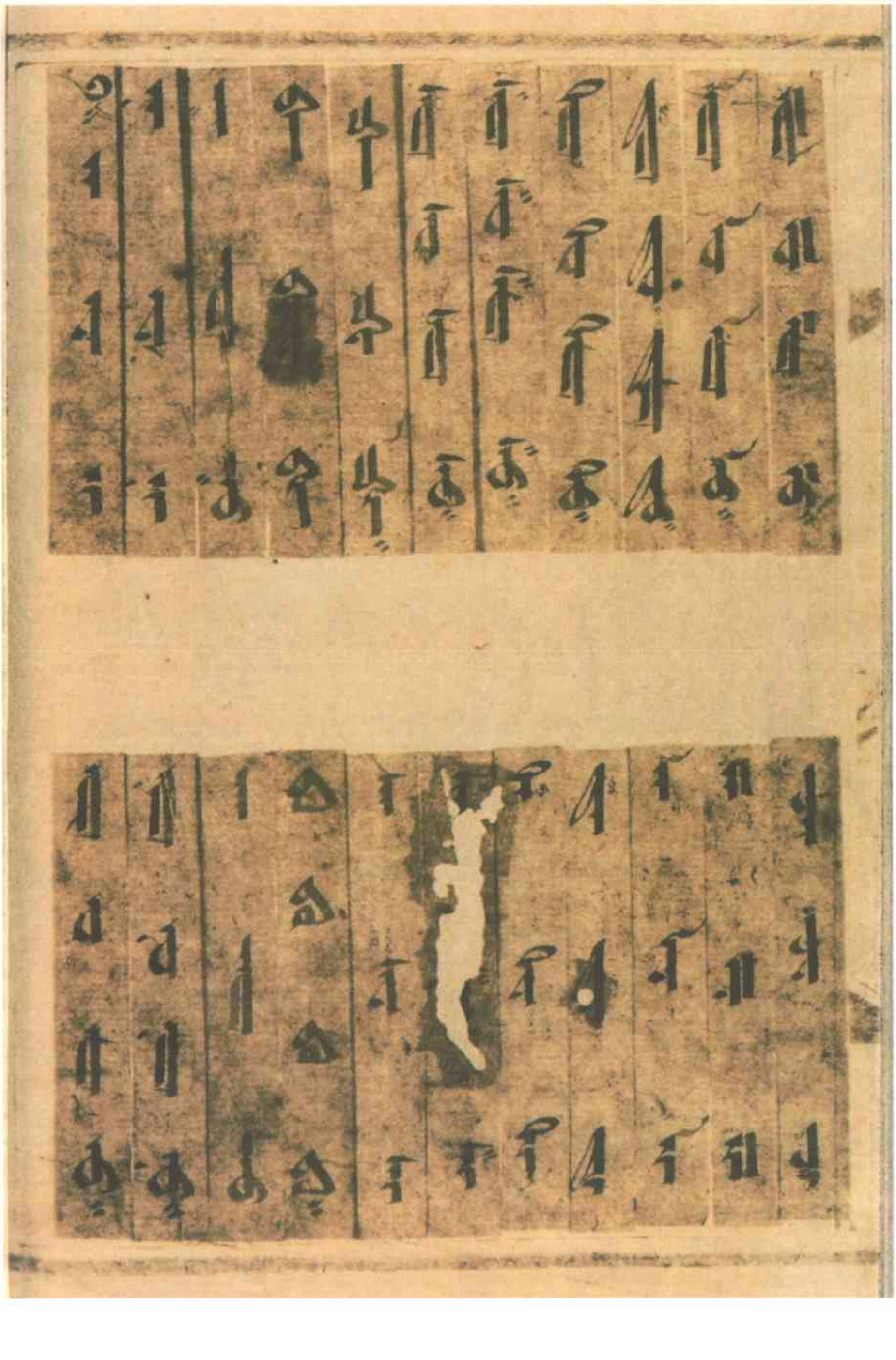


図 2. トド文字字母表（1b）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

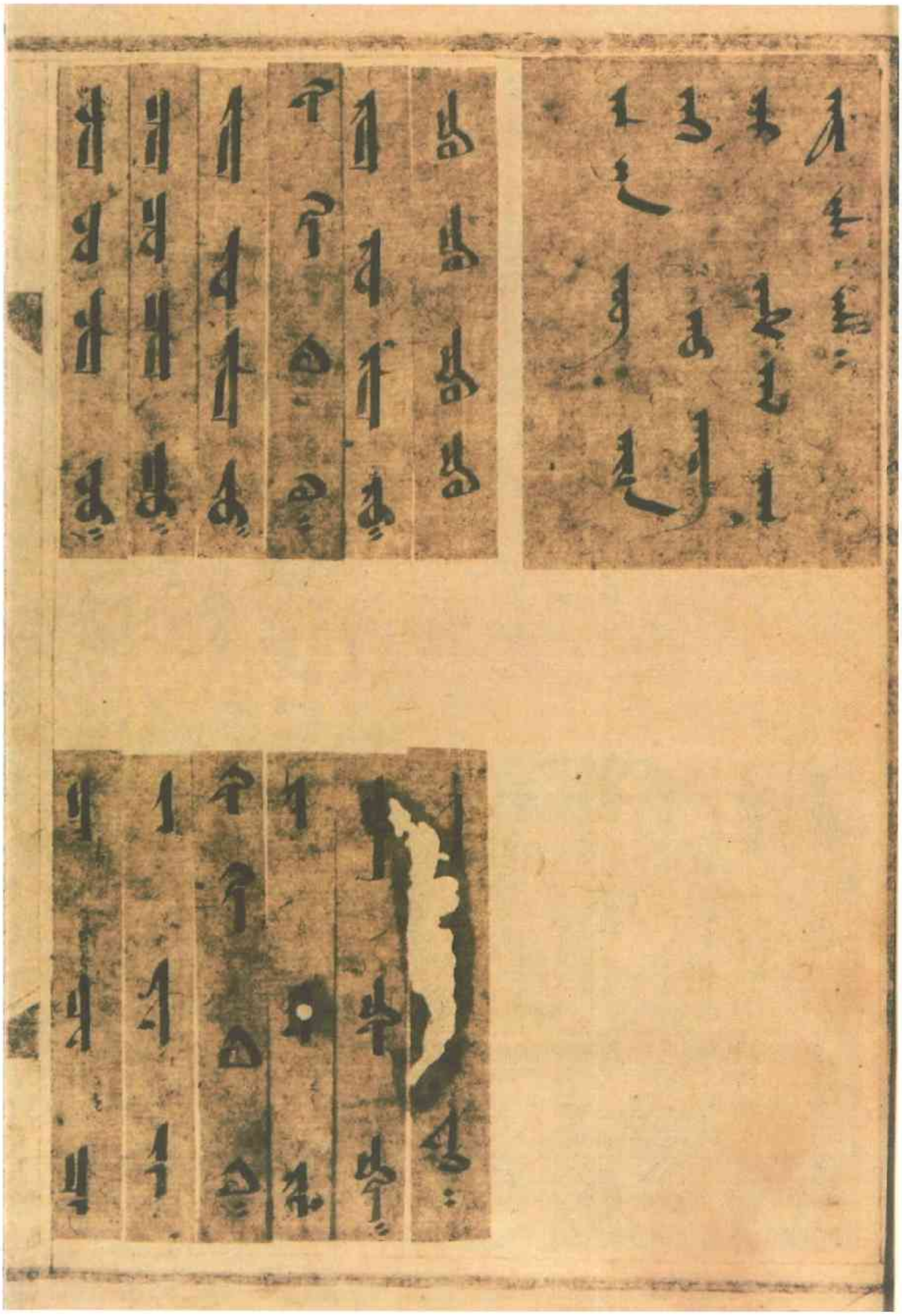


図 3. トド文字字母表（2a）

1　2　3　4　5　6　7



4．「トド文字一百条」におけるオイラート文語の特徴

ここでは、「トド文字一百条」の言語的な特徴を「字種・字形」「正書法・綴り」「文法的語尾」に分けて検討する（注 12）。

【字種・字形】

(1)「トド文字一百条」に（manǯ'u「満洲」）という語が 12 回現れるが、それらの第 2 音節頭にはすべてという文字が書かれている（本稿ではこれを ǯ' とローマ字転写した）。は、（manǯ'u「満洲」）以外の語には用いられていない。また、「序」のオイラート文語にはこの文字（字形）は使われず、（manǯu）と綴られている。加えて、この字形は「トド文字の字母表」にもない。「トド文字一百条」においてのみ「満洲」という語を特別に扱っているが、これが何らかの発音（の違い）を表すかどうかは不明である。

(2)トド文字では、破擦音を表す文字として、有声のと無声のという 4 種類の文字が知られている。これに対して、「トド文字一百条」では、上述の（manǯ'u）のを除いて、有声のと無声のという 2 種類の文字しか使われていない。「トド文字の字母表」にもとの 2 種類が書かれているだけで、との文字はない（注 13）。

【正書法・綴りについて】

(1)トド文字には狭い円唇母音を表す後舌の（u）と前舌の（ü）という 2 種類の母音字があり、両者の字形は補助記号（斜めの線）の有無で区別されている。

「トド文字一百条」では、子音字（x）および（γ）に連なる後舌の u には補助記号を付けず、（xu）、（γu）と書かれている。例：

xurdun「はやい」(4a1)	γurban「三」(3a10)
bol=xuna「～では」(1a3)	asγun「晩」(2a10)
ungši=xu「読む」(1a2)	ayalaγu「発音」(5b6)

トド文字の子音字（x）、（γ）は後舌の母音字としか結びつかないことから、母音の種類は明白であり、母音字（u）の補助記号を省略したものと考えられる。この表記方法は、一貫している。

(2)連続する母音字の二番目が後舌の u である場合、u には補助記号を付けない字形（）で書かれている。この表記方法も、一貫している。例：

you「何」(1a9)	γašoun「苦い」(3a2)
yabuul=「提出しろ」(4a2)	bol=buu「でしょうか」(4b4)
xariula=ǯi「報いる」(1b3)	orčiul=「翻訳しろ」(2a3)

これらのうち、（ou）、（uu）では、一番目の母音字が後舌で、母音調和により二番目の母音字の種類は明白であることから、母音字（u）の補助記号を省略したものと考えられる。（iu）は、他の音節に後舌の母音字がある場合には、母音調和に

よって母音の種類は明白であることから、補助記号を省略するものと考えられる。

(3)円唇の長母音は (ō)、(uu)、(ȫ)、(üü) で表記されている。

xōron-du「間で」(5b4)　odō「今」(1b8)

bol=buu「でしょうか」(4b4)　surγuuli「学校」(2a4)（注 14）

ȫr「自分」(4a4)　tör=ȫd「生まれて」(1a1)

tüükei「未熟」(2b4)　türüü「頭」(2b7)

一方、(ou)、(öü) という表記も、現代のオイラート方言を含むモンゴル語で円唇の長母音に対応しており、長母音を表している可能性がある。

you「何」(1a9)　γašoun「苦い」(3a2)

xouli「しきたり」(3b7)　kübööün「子」(1b2)

これは「トド文字一百条」に限らず、オイラート文語文献に一般に見られる表記である。

(4)「トド文字一百条」では、疑問の助詞 (uu/üü) は先行する語と繋げて書かれている。その際、先行する語の末尾の短母音字が脱落することがある。例:

bol=buu「でしょうか」(4b4)　ge=nüü「～と言うか」(6a7)

また、疑問の助詞の母音字が、一つだけで (u/ü) となることがある。例：

čida=nu「できるか」(1b3)　bol=nu「いいか」(1b6)

bayi=nu「あるか」(1b8)　yabuul=bu「提出したか」(3b5)

(5)「トド文字一百条」では、第３人称所属を表す (ni)は、ungši=xu ni「読むのは」(1a2)、ügei ni「無いのは」(1b4-5)のように先行する語から離して書かれることもあるが、多くの場合先行する語と繋げて書かれている。その際、子音 n で終わる単語は、その子音 n が脱落する。例：

mede=kü*ni「知るのは」(6a8)　sanān-du*ni「その考えで」(1a9)

ge=qči*ni「というのは」(2b2)　mede=se*ni「知っているのは」(6a3)

(6)同じ単語で、次のように表記の異なる場合がある。

1) ödür「日」(1b7, 2a1, 2a2, 2a9, 3a10, 3b1, 5b2) ～ ödör (2b8)

2) čolo「暇」(2a10, 2b1, 3a3, 5b6) ～ čola (2a1, 4b3, 4b3)（注 15）

3) bol=buu「でしょうか」(4b4) ～ bol=bou(5a5, 5a6)

4) sur=su*ni「学んだことは」(3b3) ～ sura=su*ni (6a3)

5) γaǰar「ところ」(1a6, 4a10, 6a2, 6a9) ～ γaǰara (2a5)

6) keǰiye「いつ」(2b7) ～ keǰiyā (2a5)

7) ayitai「流暢な」(3b3, 5b3) ～ayatai(5a1)

8) xā「どこ」(2a4, 6a9) ～ xamā (5a1)

9) youma「こと」(1b5) ～ youman (5a5)

10) you「何」(1a9, 2a5, 2a9, 3a4, 3b10, 4b10, 5b5, 5b7) ～ youn (2b3, 3a3, 4a5, 4b1, 4b6, 6a3)

(7)次の2語には母音調和に反する綴りが見られる。

kejiyā「いつ」(2a5)　　güyiče=ya 「追い付こう」(6a5)

【文法的語尾について】

(1)「トド文字一百条」における名詞の格語尾の種類とそれらが用いられている条件を例とともに示すと、次のとおりである。

表1. 「トド文字一百条」における名詞の格語尾

格	語尾	例（出現位置）	意味	語幹末の文字
属格	-yin +iyin	eke-yin (1a4) ǰil+iyin (3a10)	母の 年の	母音字、 n以外の 子音字
	+ön	ȫr+ön (4a4)	各の	
	+ai/+ei/+i	man+ai (2a4) kümün+ei (5a1) töün+i (1a10)	我々の 人の 彼の	n
対格	-gi/+yigi	üge-gi (5b7) sara+yigi (2b8)	～語を 月を	母音字
	+iyigi/+uyigi/+i	tan+iyigi (3a6) ulus+uyigi (5b1) sedkil+i (6a10)	貴方達を ～達を 心を	子音字
造格	+ār/+ēr	dur+ār (3a7) ǰüyil+ēr (5a8)	好きに やり方で	子音字
	+γār/+gēr/+γour	sanā+γār (2b6) öü+gēr (1b7) darā+γour (5a3)	一心に ここを 続きに	母音字
奪格	+āsu/+ēsü	ax+āsu (4a10) nigen+ēsü (2b4)	兄に 一人が	
与位格	+du/-dü	čima+du (4b2) nigen-dü (4a9)	貴方に ひとつに	母音字、n
	-tu/-tü	bičiq-tü (6a3)	書物が	q
共同格	-tai/+tei	tan-tai (3a4) nöküd+tei (5b2)	貴方達と 友人達と	

（プラス「+」は語幹と繋げて書かれ、ハイフン「-」は語幹から離して書かれることを表す）

属格語尾 +ön は、ȫr+ön（「各の」4a4）以外の語に付いている例はない。これについては、Лувсанбалдан［1975］、サンボードルジ・橋本［2005］等にも言及されていない。

また、属格語尾の-ai/-ei（子音字 n で終わる語幹に付く）も、Лувсанбалдан［1975］、サンボードルジ・橋本［2005］に記載はない。

(2)「トド文字一百条」における動詞の時制語尾の種類と形は次のとおりである。

表 2.　「トド文字一百条」における動詞の時制語尾

機能	語尾	例（出現位置）		意味
過去	=ba/=be	sur=ba ire=be	(4a6) (4a9)	学んだ 来た
	=ǰi	neme=ǰi	(3b3)	増えた
現在・未来	=na/=ne(=nē)	šaxa=na ge=ne eri=nē	(6b2) (4b8) (3a2)	近づく と言う 捜す
	=nai/=nei	sur=nai ge=nei	(4a3) (4a3)	学んでいる と言う
	=nam	γar=nam	(2b8)	出す

過去形語尾の =ǰi(/=či)は、後述の副動詞の並列形の語尾（=ǰi/=či）と同形であり、どちらかは文脈によって判断する必要がある。

現在・未来形には 3 種類の語尾が用いられているが、最も多いのは、/(=nai/=nei)であり、/(=na/=ne)は比較的少ない。(=nē)および (=nam)の例は、それぞれ表にある1例だけである。

(3)「トド文字一百条」における動詞の形動詞形語尾の種類と形は次のとおりである。

表 3.　「トド文字一百条」における形動詞語尾

機能	語尾	例（出現位置）		意味
完了	=san/=sen/=su[n]	γar=san mede=sen sur=su*ni	(4a7) (6a9) (3b3)	出た 知った 学んだことは
	=qsan/=qsen	bol=u=qsan mede=qsen	(1b2) (1a3)	なった 知った
未来	=xu/=kü	sur=xu biči=kü	(5a7) (2a1)	学ぶ 書く
動作主	=qči	ge=qči	(4a4)	～と言うのは
習慣	=deq	kele=deq	(6a7)	～と言う

形動詞完了形には、/(=san/=sen)、/(=qsan/ =qsen)という 2 種類の語尾が用いられているが、両者に何らかの使い分けの条件や規則があるかどうかは不明である。それらのうち、 / (=san/=sen)は、Лувсанбалдан［1975：56-58］、サンボードルジ・橋本［2005：170-172］、伦图［2003：349］には記載されていない。

完了形の =su[n] は、sur=su*ni(3b3)と sura=su*ni(6a3)にのみ見られる。これらを完了の形動詞語尾 =sun に第 3 人称の所属を表す ni が接続して、語末の子音字 n が脱落したものとみなした。

(4)「トド文字一百条」における動詞の副動詞形語尾の種類と形は次のとおりである。

表 4. 「トド文字一百条」における副動詞語尾

機能	語尾	例（出現位置）		意味
仮定	=xulā/=külē	sana=xulā	(1b5)	考えるならば
		teyi=külē	(4b9)	それなら
	=xana/=xuna/=küne	sana=xana	(5a8)	思えば
		sur=xuna	(6a10)	学ぶならば
		kele=küne	(2b3)	言っても
	=xuni/=küni	xayirla=xuni	(4b2)	慈しむなら
		čeǰil=küni	(2b4)	暗唱させれば
	=bala/=bele	ungši=bala	(2b6)	読むなら
		kelelče=bele	(5b3)	話せば
限界	=tala/=tolo	bayi=tala	(5a7)	～なのに
		bol=tolo	(4a6)	～なるまで
譲歩	=ba ču/=boču	yaγa=ba ču	(5b3)	どうしても
		bol=boču	(2a5)	なっても
	=ba čigi/=be čigi	sonos=ba čigi	(3a1)	聞こえても
		kele=be čigi	(2b10)	言っても
継続	=sār/=sēr	sur=sār	(1a3)	学んで
		čeǰile=sēr	(6a4)	暗記して
分離	=ād/=ōd/=ȫd	sur=ād	(3b1)	学んで
		bol=ōd	(1b5)	なって
		tör=ȫd	(1a1)	生まれて
並列	=ǰi/=či	kele=ǰi	(5a3)	話し
		kür=či	(6b1)	達し
目的	=xai/=xā/=kē	ungši=xai	(2b6)	読みに
		ungši=xā	(2b2)	読みに
		üǰe=kē	(4a9)	会いに

表に見るように、「トド文字一百条」には、仮定の副動詞語尾の種類が多い。これらのうち、(=xana)、/ (=xuni/=küni)という語尾は、Лувсанбалдан［1975：56-58］、サンボードルジ・橋本［2005：170-172］、伦图［2003：349］などには見られない。例：

amur=xana「休んでも」(3a3)　　sana=xana「思えば」(5a8)

xayirla=xuni「慈しむなら」(4b2)　　kele=küni「話せば」(5a2)

仮定の副動詞語尾 / (=xuni/=küni)は、形動詞語尾 / (=xu/=kü)に第 3 人称所属の (ni)が付いた形と同じである。いずれかは、文脈によって判断する必要がある。

原文で、副動詞仮定形の語尾 (=xulā)、(=xuna)を (=bala)に書き直したと見られるものがいくつかある（1a4, 1b6, 3a9, 4a5, 4a8, 4b1）。それらは注釈で指摘した。

5．「トド文字一百条」のローマ字転写および日本語訳・注釈

ここでは、「トド文字一百条」の影印と、頁・行ごとに対応したオイラート文語のローマ字転写、日本語訳を原文と見開き対照の形で示し、簡単な注を付す。以下、文献名は、『tanggū meyen（一百条)』を TM、『三合語録』を『語録』、『初学指南』を『初学』と略称する。

(1)図版について

「トド文字一百条」に丁付けは無いが、1a（第１丁表）～6b（第６丁裏）の番号を振り、頁の上部にそれぞれの行に対応する行番号を付した。

(2)ローマ字転写テキストについて

1)ローマ字転写方式はサンボードルジ・橋本［2005］によるが、以下のような補助記号を付した。

「=」（イコール）：動詞語幹と活用語尾との境界。

「+」（プラス）：名詞類の語幹と連綴される曲用語尾との境界。

「-」（ハイフン）：名詞類の語幹と分綴される曲用語尾との境界。

「*」（アステリスク）：連綴される単語間の境界。

「!」：(感嘆符)「原文のまま」の意味。

2)< ᠵ > は ǰ、< ᠴ > は č で転写する。また ᠮᠠᠨᠵᠤ（満洲）の ᠵ は ǰ' と転写する。

3)句読点は四点と二点の 2 種類ある。四点は各話（条）の最後に置かれ、それ以外はすべて同じ記号（二点）である。本稿では四点を「::」（コロン２個）としたが、二点に関しては文末は「.」（ピリオド）に、句の切れ目は「,」（コンマ）にした。

4)紙の破損や汚れ等により判読困難な箇所は［ ］（カギカッコ）に入れた。カッコには推定される形式を補ったが、不明の場合は［..］のようにした。

(3)日本語訳について

1)個々の会話は「 」でくくった。会話中に引用される別の会話は『 』に入れた。

2)語句の解釈には、TM、『語録』、『初学』の満洲語およびモンゴル語訳を参考にした。

(4)注釈について

1)頁ごとにローマ字転写と訳の注を付した。注は、出現位置と該当のローマ字転写形を示し、説明を付した。

2)注における TM の満洲語、『語録』と『初学』の満洲文字表記モンゴル語のローマ字転写は、Möllendorff［1892］方式による。また、モンゴル文語のローマ字転写は栗林・呼日勒巴特尓［2006］の方式による。

3)満洲文字表記モンゴル語のローマ字転写で用いる補助記号（「=」、「+」、「-」）は、オイラート文語のローマ字転写の場合と同じである。

図 4. トド文字一百条（1a）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



1a

【第1話】(TMの第51話、『語録』『初学』の第4話)

1 kümün ge=ǰi yertünčü-dü tör=ȫd, yeke erkin kereq čini sur=xuyi+gi
「人 として 世の中に 生まれて、とても 大事な ことは 学ぶことを

2 erkin bolɣo=ǰi. bičiq ungši=xu ni čoxom ǰurum ǰüyi+gi mede=kü tula baxa.
大切にした。 書物を 読むことは とりわけ 義 理を 知る ためである。

3 sur=sār ǰurum ǰüyi+gi todo mede=qsen xoyino, ger+te bol=xuna, ečige
学んで 義 理を 明らかに 知った 後には、家に あっては、父

4 eke-yin ǰaxa+du ačila=ǰi čida=xu, tüšimel su=bala, ulus törö+dü
母の 傍で 孝行することができ、 官吏に なれば 国家に

5 küči bari=ǰi čida=xu tula, xamuq kereq ǰayān+dān bütü=ne bišiü. odō bol=boču,
力を 尽くすことができるので、すべてのことが自ずから成就するではないか。今でも、

6 ünēr sur=sār čidaburitai bol=xuna, ali ɣaǰar kü[... xoyin]o, kümün kündül=kü
本当に学んで 才徳を 持てば、 どんな所に 至った(後も)、 人が 尊敬する

7 tödüi biši, beye yabu=xu-du xor šor baxa. ǰarim ulus bičiq ungši=xu
だけでなく、自らの行いにおいても昂然としているのだ。ある人たちは書物を読ま

8 ügei, yabudal+i ǰasa=xu ügei bol=ōd, xarin ɣulduri=ǰi bildöüčile=ǰi yabu=xu+yigi
ず、 行いを 修めずに、 却って密かに企み媚びへつらって行くことを

9 tengkētei ge=sen. tere sanān-duni you bol=u=ya ge=kü+yigi mede=kü biši. bi ünēr
才能があるという。その考えで 何に成ろうというのか分からない。 私は本当に

10 töün+i tula iče=nei baxa. ene ǰerge ulus, beye ɣutu=xu yabudal ebder=kü
そういう人のために恥じるのだ。その類の人達は 身を 辱め、 行いを 損なう

1a1 ge=ǰi : 語尾を書き換えた跡がある。『語録』には ge=kci、『初学』には ge=ji とある。

1a2 baxa : この語は、1a7, 1a10, 1b1, 2b9, 3a9, 3b2 と都合7回現れる。文末語気詞として確認を表している。1a10, 1b1, 2b9 では、TMの満洲語の kai「〜だぞ」に対応している。baxana(2a7, 5b5)も同類の語と見なすことができる。

1a4 su=bala : 語尾を書き換えた跡がある。元の字形は =xulā に見える。『語録』には対応する語がなく、『初学』には sao=bala とある。

1a6 kü[... xoyin]o : 『語録』には kur=sun hoino、『初学』には kur=sen hoino とある。

図 5. トド文字一百条（1b）



1b

1 tödüi biši, töün+i ečige eke či bol=ba, mün kümün-dü xaraqda=xu baxa.
だけでなく、彼の　父　母　さえも、　同様に 人に　罵られるのだ。

2 abaγai či ǰügēr sana=ǰi üǰe=. ečige eke-yin ači, küböün bol=u=qsan kümün,
兄上、 あなたは ただ 考えて見なさい。父母の　恩は 子と　なった　人が

3 tümen-dü nigente xariula=ǰi čida=nu. önggü neme=ǰi geyigül=ǰi ese čida=bala
万に　一度も報いることができようか。面目を増し 輝かせることができなくても

4 büyiq. xarin kümün-dü xarālγa=xu+du kür=bele, tere čini üdele=kü ügei
よい。 却って 人に　罵られることに至れば、 それは　見込みが ない

5 ni yamar youma bol=xu bui. öün+i kina=ǰi sana=xulā kümün bol=ōd, bičiq ungši=xu
のは 仕方がない。　これを仔細に 考えるならば、人として　書物を読ま

6 ügei bol=bala bol=nu. yabudal+i erkin bolγo=xu ügei bol[=xu]lā bol=[n]u :: . ::
ないで　いいのか。行いを　大切にしないで　いいのか。」

【第2話】(TMの第3話、『語録』『初学』の第5話)

7 abaγai či ödür büri öü+gēr yabu=xu+dān, čuq xārān od=nai. bičiq
「兄上　あなたは　毎日　ここを 通るのは　いつもどこへ行くのか。」「本を

8 sur=xai od=nai. manǰ'u bičiq sur=či bayi=nu. mün. odō yamar ǰerge bičiq
学びに行くのだ。」「満洲語の本を学んでいるのか。」「そうだ。」「今どのような本を

9 ǰālγa=ǰi bayi=nai. öbörö bičiq ügei. γaqča mün odō kereqle=kü baγa saγa
教わっているのか。」「他の 本は　ない。ただ　ちょうど今使う　少しばかりの

10 üge. basa manǰ'u ügen+i sur=xu ǰorilγa tobči+yin bičiq bayi=nai. tan+du
言葉だ。また、『清文指要』の　本だ。」　「あなた達に

1b1 xaraqda=xu : 4行目の xarālγa=xu+du と動詞の語幹は同じであるが二つ目の母音に長音符号がない。補助符号が不注意で脱落したものか。

1b4 büyiq : 意味不明。『語録』には boidza、『初学』には buije とある。

1b6 bol=bala : 語尾を書き換えた跡がある。元の字形は =xuna に見える。『語録』には、bol=hūna とあり、『初学』には対応する語がない。

1b6 bol[=xu]lā bol=[n]u: 『語録』には bol=hūla bol=noo、『初学』には bol=bala bol=noo とある。

1b7 čuq :『語録』には cuk、『初学』には cum とある。オイラート語の意味は「すべて」。

1b10 manǰ'u ügen+i sur=xu ǰorilγa tobči+yin bičiq : 『語録』の漢語には「百條清語」、『初学』の漢語には「清文指要」とある。本の題名として訳した。

図 6. トド文字一百条（2a）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



2a

1 darumal üǰüq ǰālγa=ǰi bayi=nu. odō ödür axur. üǰüq bič̌i=kü čola
楷書を　　教えて　いるか。」「今は 日が 短い。字を 書く　暇が

2 ügei. öün+ēsü ödür urtu bol=u=qsan xoyino, üǰüq bičiülgüsēr　　xarin
ない。これから日が　長く なった　　後で、　字を 書かせるだけでなく、なお

3 orčiul= ge=nei bišiü.　　abaγai bi bičiq ungši=xu tula, ünēr toloγoi ergi=ǰi
翻訳しろと言うではないか。」「兄上、私は本を読むために、　実際 頭が 回って

4 xā eri=sen ügei.　　man+ai ene oyiro tōrin, yerü manǰ'u surγuuli ügei.
どこを探してない。　　私たちの この付近には、　全然 満洲語の学校が　ない。

5 sana=bala čini　　sur=xu γaǰara　you kele=kü bui. keǰiyā bol=boču, bi basa
思えば、　あなたが 学ぶ ところは 何というのか。　いつ　か、　　私 も

6 bičiq ungši=xai od=nai. mini tula bāxan medö[ül=ǰi]　[bo]l=nu.　abaγai či
本を　読みに　　行く。私のために 少し知らせることはできるか。」「兄上、あなたは

7 man+ai ǰālγa=san kümü+yigi ken ge=nei. baqši ge=nü.biši baxana. mini nige töröl+iyin
私たちの教えて貰っている人を誰だと言うか。先生と言うか。違うのだ。私の親戚の

8 axa.　　ǰālγa=xu　ene ulus,　čuq man+ai nige töröl+iyin küüked döü+ner,
年輩の人だ。教えて貰うこの人たちは 皆 私たちの 一 族の　　子弟たちだ。

9 basa uruq eliken, tong öbörö ulus ügei.　you ge=küne,　mini axa　ödür
また 親戚たちで、 全然 他の　人は いない。なぜかと言えば、その年輩の人は毎日

10 büri yāmala=nai. čolo ǰabdu=xu ügei. man+ai ulus öröün asγun ayi+yi*ni
役所に勤めている。暇がない。　　私たちは　　朝に　晩に　都合を

2a2　bičiülgüsēr ： TM と『語録』の満洲語には arabumbi sere anggala「書かせるだけでなく」とある。2b8　bürülküsēr を参照。

2a3　toloγoi ergi=ǰi ： TM の満洲語は uju silgime「頭を突っ込んで」とある。「頭が回って＝見回して」の意か。

2a4　xā eri=sen ügei ： TM の満洲語には aibide baihanahakū とあり、浦・伊東［1957：96］は「捜し求めなかった（所はない）」と補って訳している。「どこを探さなかった（か）＝すべて探した」の意か。

2a5　keǰiyā ： この綴りは母音調和に合わない。

2a6　medö[ül=ǰi] [bo]l=nu ： 『語録』と『初学』には medeol=ji bol=noo とある。

2a7　baxana ： 5b5 の注を参照。

2a8　ene ： 『語録』と『初学』には ele とある。

2a8　čuq ： 書き換えた跡がある。『語録』には cuk、『初学』には cum とある。

図 7. トド文字一百条（2b）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



2b

1 üǰe=ǰi od=xu tula, arγa yad=ād čolo arγača=ǰi man+iyigi surγa=nai. biši
見て　行くので、　どうにか　暇をやりくりして私たちに教えている。そうで

2 bol=xuna　abaγai bičiq ungši=xā od=u=ya ge=qči*ni, sayin kereq buyiǰa. čini tula
なければ、兄上が書物を読みに行こうと言うことは　いいことだろう。あなたの為に

3 bāxan kele=küne, nada basa youn xortoi bui :: . ::
少し　言っても　私に また 何の 害があろうか。」

【第3話】（TMの第90話、『語録』『初学』の第6話）

4 ene öröün teden+ei bičiq čēǰil=küni,　nige nigen+ēsü tüükei. tede=ǰi
「今　朝　彼らの　本を　暗唱させれば、一人 一人が　未熟だ。つかえて

5 kele=ǰi čida=xu ügei, daq ge=ǰi ǰoqsolča=nai.　töün-dü bi　tür　bayiǰa.
話すことができずに、　呆然と　立ち尽くしている。そこで　私は『ちょっと待て。

6 mini üge+yigi sonos=. ta manǰ'u bičig+i ungši=bala, t[edü n]ige sanā+γār
私の 言葉を　聞け。　あなた達が満洲語の本を読むなら、ただちに一生懸命

7 surγa=nai. ene bütür*tō　ki=ǰi　xoyiš[..]n　nere ab=u=bala, keǰiye eki türüü
教える。　このように数を揃えて　虚　名を 取るなら、いつ　頭が

8 γar=nai. ünēr ta ödör sara+yigi talār bürülküsēr　bi či talār küči γar=nam
出るか。 実際あなた達が月日を　無駄に送るだけでなく、私も 無駄に力を 出す

9 baxa. ese ge=küne tan+i beye+yigi ta sāta=ba ge=nü. ese ge=küne bi tan+i sātul=ba
ことになる。そうでなければ、貴方達の身を貴方達が妨げたというのか。そうでなければ私があなた達を妨げた

10 ge=nü.　iderši=sen yeke ere bol=ōd, kele=be čigi čingna=xu ügei. čikin-dü
というのか。成年した　大人の男になって、言って　も　聞かない。　耳に

2b4　bičiq čēǰil=küni : TMの満洲語に bithe be šejilebuci「本を暗唱させれば」とあり、訳はそれに合わせた。

2b6　t[edü n]ige : 『語録』と『初学』には tedü nige とある。tedü に対応するモンゴル文語形は tedü「即刻，立即」（《蒙汉词典》[1999 : 1046]）である。

2b7　bütür*tō : bütür は、満洲語の gese「～のような」に対応している。tō は前の単語に繋がっているが、『語録』と『初学』では離して書かれている。

2b7　xoyiš[..]n : 『語録』と『初学』には hoosun「空」とある。

2b8　bürülküsēr : TMの満洲語には manabuha sere anggala「無駄に送るだけでなく」とある。bičiülgüsēr(2a2)は同様の構造をもつと考えられる。

図 8. トド文字一百条（3a）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



3a

1 sonos=ba čigi sanān-du toqtō=xu ügei. nüür tani dān duǰir bišiü.
聞こえて も 心に 停めない。 顔は（あなた達の）とても硬く（厚く）ないか。

2 mini ene γašoun üge+yigi, ta bitügei yariq ge=. bitügei seb eri=nē ge=. odō
私の この苦い 言葉を あなた達はうるさいと言うな。あら捜しをすると言うな。今

3 či bol=ba, mini beye alba xā=ǰi ülde=sen čolo+dur bāxan amur=xana youn
でも 私は 役所に勤めて 残った 暇に 少し 休んでも 何が

4 bi. bayin bayin tan-tai eyige=ǰi tege=ǰi kelelče=ǰi you ke=nei[!]. mün kü töröl
ある（悪いことはない）。しばしばあなた達とあれこれ話をして何になるか。やはり親

5 ayimaq tula, tan+i sayiǰir=tuγai kümün bol=tuγai ge=kü sanān bišiü. bi odō arγa
戚だから、あなた達が良くなれ、一人前になれという思いではないか。 私は今 策が

6 yada=ba. bi dang sayitur tan+iyigi ǰā=ǰi mini xubi+yin kereq tušā=x+āsu biši,
尽きた。 私は ただ よく あなた達を教えて私の 自分の 仕事を果たすだけで、

7 sonos=xu ülü sonos=xu ni tan+i dur+ār bol=u=ya. nama+yigi yaγa=ya ge=nei :: . ::
聞く 聞かないは 貴方達の好きに任せよう。私を どうしようというか。』

【第4話】（TMの第39話、『語録』『初学』の第7話）

8 či kitad bičiq čida=xu kümün bišiü. orčiul=xu+yigi sur=bala, tong
「あなたは 漢文が できる 人ではないか。翻訳を 学べば とても

9 kimda baxa. yerü sanā kičē=ǰi tasural ügei ǰerge-bēr sur=xu bol=bala xoyar
簡単だ。 ただ 一生懸命に 中断せず 続けて 学ぶ なら、 二・

10 γurban ǰil+iyin xōron-du, ǰayān+dān sayiǰira=xu youman. kerbe nige ödür
三 年の 間に おのずから 上達する ものだ。 もしも 一 日

3a1 duǰir：TMの満洲語は silemin「耐久力のある」である。これに対応するモンゴル文語形は döǰir「有耐力的」（《蒙汉词典》[1999：1209]）である。

3a2 eri=nē ：現在・未来時制形の語尾で母音が長いのは、この1例のみ。

3a4 you ke=nei[!] ：you ge=nei「何を言うか」または、you ki=nei「何をするか」の誤。『語録』には yeo ge=nei、『初学』には yeoki=na とある。

3a9 bol=bala：語尾を書き換えた跡がある。元の字形は bol=xulā に見える。『語録』と『初学』には bol=hūla とある。

図 9. トド文字一百条（3b）

1　2　3　4　5　6　7　8　9　10



3b

1 sur=ād, xoyor ödür [önǰi=]bele,　darui xorin ǰil bičiq ungši=ba ču
学んで　二　日　過ごせば　すなわち 二十年　本を　読んでも、

2 mün　talār baxa. abaγai mini orčiul=u=qsan+i üǰe=ǰi, bāxan ǰasa=ǰi xayirla=.
やはり無駄なのだ。」「兄上　私の 翻訳したものを 見て　少し 直して ください。」

3 čini　sur=su*ni　yeke neme=ǰi. üge büri ayitai üǰüq　büri todo.　bičixan
「あなたの学んだことは多く 増えた。語はみな 流暢で 文字はみな 明瞭だ。少し

4 či γaba　ügei. šilγa=ǰi üǰe=bele, bari=sār oro=xu youman.　ene
も 欠点がない。受験して みれば、　すぐ　受かる はずだ。今

5 udā bi[čiye]či šilγa=xu-du, nere yabuul=bu ügeyi*yü.　šilγa=ǰi bolultai
回、筆帖式の試験に　名前を提出したかしてないか。」「受験することができる

6 bol=bala, neng sayin youman sanǰi. γaqča bičig+iyin šu[sa]i y[aγa=ǰi] bol=xu bui.
なら　非常によいことだろうに。ただ、　文秀才は　どうして　できるか。」

7 ene čini xan+āsu γar=san xouli,　čini　adali nayiman xošiun+i šusai
「それは　どこから出た　きまりか。あなたと 同じ　八 旗の　秀才は

8 čöm šilγa=ǰi bol=xu bayi=tala,　čima+yigi γaǰar[!] šilγuula=xu ügei yosu
皆　受験することができるのに、 あなたを　一人だけ受験させない　道理が

9 bayi=nu.　tere či bayi=tuγai, ǰurum-tu surγal+iyin küüked　čöm bol=xu
あるか。　それだけではなく、　義 学の　子弟たちが　皆　大丈夫

10 bol=ōd, šusai-gi you kele=kü bui. šilγa=ǰi bol=xu tula, čini　döü
なのに、秀才は　言うまでもない。 受験できるので、　あなたの弟は

3b1　[önǰi=]bele：『語録』には onji=bala、『初学』には unji=bala とある。語尾が女性母音であり、önǰi=bele と推定される。

3b3　sur=su*ni：TM の満洲語には tacihangge「学んだこと（は）」とある。

3b4　bari=sār：TM の満洲語には seferehei とある。bari=, sefere- の原義はいずれも「掴む」であるが、この形で「すぐに」の意味を表す。（注 16）

3b5　bi[čiye]či：『語録』と『初学』には biciyeci とある。

3b6　bičig+iyin šu[sa]i：『語録』と『初学』には šusai とある。TM と『語録』の満洲語は bithei šusai とあり、対応する漢語は『語録』では「文秀才」、『初学』では「文生員」とある。

3b6　y[aγa=ǰi]：『語録』には yaga=ji、『初学』には ya=ji とある。

3b8　γaǰar[!]：『語録』と『初学』には gancar とある。文脈上の意味から γančar の誤記と推定される。

図 10. トド文字一百条（4a）

1　2　3　4　5　6　7　8　9　10



4a

1 ene xōron-du saya šārda=ǰi manǰ'u bičiq ǰālγa=ǰi bayi=nai. xurdun
この間 ようやく急がせて 満洲語の書物を教わって いる。 はやく

2 nere yabuul=. čag+i bitügei alda= :: . ::
名前を提出しなさい。時機を 失うな。」

【第5話】(TMの第1話、『語録』『初学』の第1話)

3 sonos=xuna či odō manǰ'u bičiq sur=nai ge=nei. maši sayin. manǰ'u
「聞けば、 あなたは 今 満洲語の書を 学んでいるそうな。とてもよい。 満洲

4 üge ge=qči, bidan+i eng terigüün erkin kereq. darui kitad+iyin ōr ōr+ön
語というのは、我々の 第一に 大切なことだ。すなわち漢の 各々の

5 gaǰar+iyin üge adali. ese čida=bala bol=nu. teyimi biši bol=xuna youn
土地の 言葉と同じで、 できなければならない。」「そうでなくて 何

6 bi. bi arban ǰil ilöü kitad bičiq sur=ba. odō bol=tolo
だ(その通りだ)。 私は 十 年 以上 漢文の書を 学んだ。今になるまで

7 tong eki toloγoi γar=san [ügei.] kerbe basa manǰ'u bičiq ungši=xu
全然 頭が 出なかった。 もし また 満洲語の書物を読ま

8 ügei, orčiul=xu ügei sur=xu ügei bol=bala, xoyor tala čöm sātu=xu-
ない、翻訳しない、 学ばないなら、 両方とも 皆 立ち遅れること

9 du kür=nei. im+iyin tula, bi nigen-dü bol=xuna, abaγayi+gi üǰe=kē ire=be.
に なる。 このような訳で、私は ひとつには、 兄上に 会いに 来た。

10 ǰiči basa öbügün ax+āsu γuyi=xu γaǰar bayi=nai. yerü ama nē=kü-dü kečöü.
さらにまた 老兄に お願いしたいことがある。 ただ口を開き(言い)にくい。」

4a5 čida=bala : 語尾を書き換えた跡がある。元の字形は čida=xula に見える。『語録』には cida=hūla、『初学』には cida=bala とある。

4a7 eki toloγoi γar= : 「頭が出る」は「ものになる」の意。

4a7 [ügei.] : 『語録』と『初学』には ugei とある。

4a8 bol=bala : 語尾を書き換えた跡がある。元の字形は bol=xuna に見える。『語録』には bol=hūna、『初学』には bol=bala とある。

図 11. トド文字一百条（4b）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



4b

1　öün-dü youn bi.　üge bayi=bala darui kele=. mini čida=xu kereq bol=xuna,
「そんなことはない。話があれば 直ちに言いなさい。私のできる こと なら、

2　čima+du　bi basa erēle=nü.　mini γuyi=xu*ni abaγai xayirla=xuni, ǰobo=nai
あなたに対して私も遠慮しようか。」「私の願いは　兄上が 慈しむなら、　面倒で

3　ge=ǰi yaga=nai. čola čola ker kedün anggi manǰ'u üge ǰokī=γād, nada
も仕方がない、　暇な折に　何篇かの　満洲語を　作って、 私に

4　ungšiul=xu bol=buu.　döü bi　ol=ǰi kümün bol=bo gem,　čuq abaγai-in kišiq
読ませてもらえないか。弟の私が一人前になることができれば、すべて兄上の お蔭

5　bišiü.　yaγa=ba ču ači+yigi marta=xu ügei. erke ügei kündü-dü xariul=ya.
ではないか。 決して　ご恩を　忘れず、　必ず　厚く 報いましょう。」

6　youn-du iyige=ǰi　kele=nei. či　yerü biši ulus*yu. γaqča čini
「何で　そのように言うのか。あなたは全く 他人か。　ただ　あなたの

7　sur=xu ügeyi+gi kele=kü buyiǰa. sur=ya ge=be*gem,　bi ǰalbari=ǰi čima+yigi
学ばないのを　言うのだろう。 学ぼうと言うからには、私は　ただ　あなたが

8　kümün bol=tuγai ge=ne bišiü.　xariul=ya ge=qči　yamar üge.　bidan+i dotoro
一人前になれと言うのではないか。報いようと言うのは何たる言葉か。私たちの間で

9　kele=ǰi bol=nu.　teyi=külē, bi　süǰüqle=ǰi šütü=qsēr baraši ügei. yerü
言って いいことか。」「それなら、私は 頼りにし　畏敬して　尽きない。　ただ

10　mürgü=sēr tala ökükü biši,　you ki=kü bi :: . ::
叩頭して　感謝するより他に　何ができようか。」

4b1　bayi=bala：書き換えた跡がある。『語録』には bai=hūna、『初学』に bai=bala とある。

4b2　xayirla=xuni ：語尾の綴りは形動詞語尾 =xu に第３人称所属を表す ni が付いた綴りと同じであるが、TM の満洲語では gosici「慈しむなら」と、仮定副動詞語尾 ci が付いていることから、=xuni は仮定副動詞語尾と考えられる。

4b4　bol=bo gem：TM の満洲語では bahafi hūwašaci「成就することができれば」と、条件形になっている。4b7 の ge=be*gem も連綴されているが同じ構造の形式である。

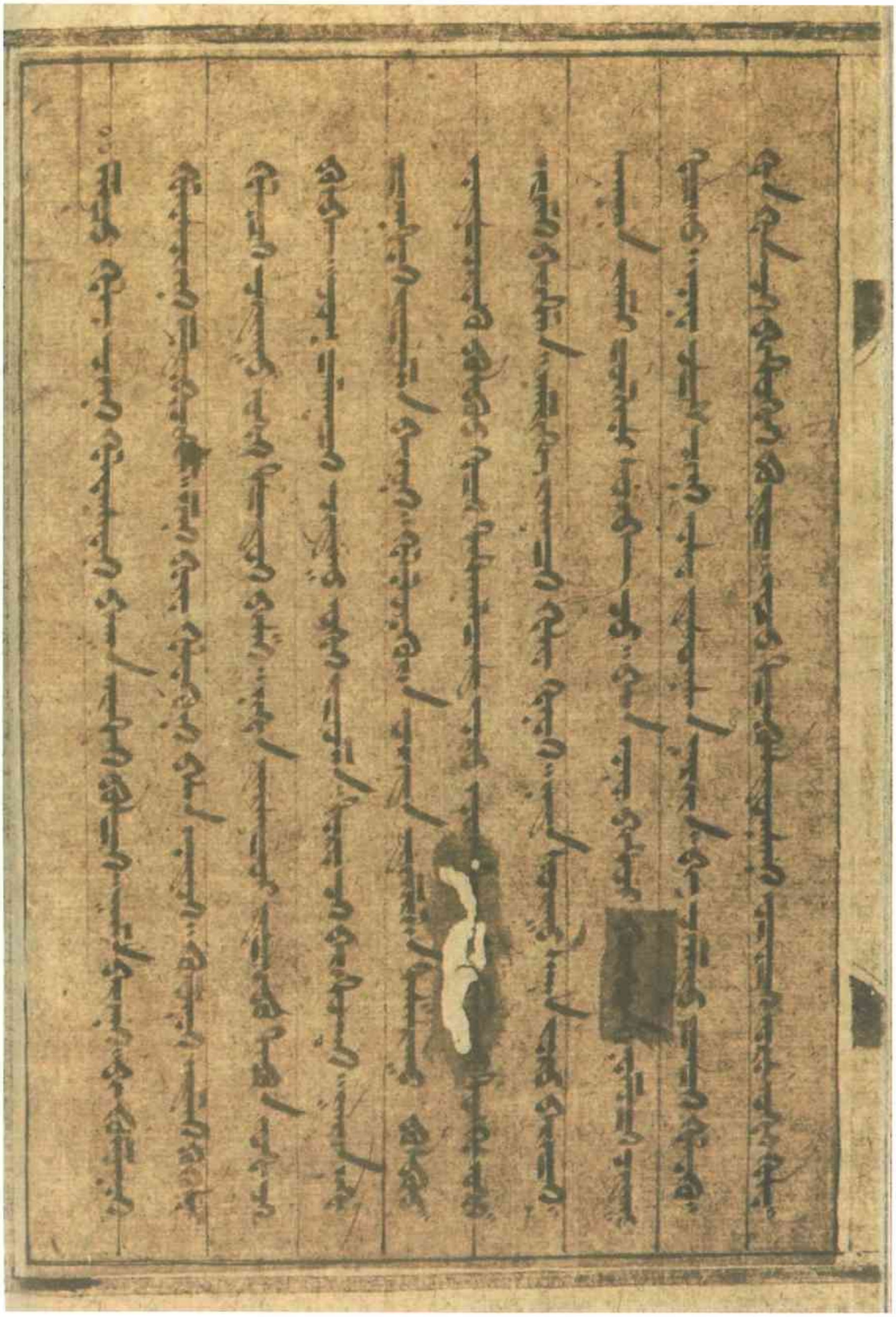
4b4　abaγai-[yi]n：『語録』と『初学』には abagai-yen とある。

4b6　[γaq]ča：『語録』と『初学』には gakca とある。

4b10　tala ökükü：TM の満洲語は baniha bure「感謝し；礼を言い」とある。ökükü の二番目の kü は書き換えた跡があり、その k の字形も他の箇所と異なる。『語録』には tala ukusu、『初学』には tala ukhuwas とある。

図 12. トド文字一百条（5a）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



5a

【第 6 話】(TM の第 42 話、『語録』『初学』の第 2 話)

1 manǰ'u kele čini kele=qse*ni bāxan ayatai bol=ǰi. xamā bayi=nai. bi kümün+ei
「満洲語は（あなたの）話すのは少し滑らかになった。」「とんでもない。私は人の

2 kele=seyini mede=bečigi, mini beye kele=küni basa edüi. kümün+ei adali bükül+ēr
話したのは分かるが、　自分が　話せば まだまだだ。他の人のようにまとめて

3 kele=ǰi čida=xu ügei tödüi biši, nigen darā+γour dörbö tabun üge či
話すことができない　だけでなく、ひと続きに　四　五　語で

4 bol=ba, čuq ǰalγa=ǰi čida=xu ügei youman. tere či bayi=tuγai, xarin nige
あっても、すべて続けることができないのだ。　それだけでなく、　却ってひとつ

5 ǰiqtei youman bayi=nai. kelelče=kü+yin urida dimiyila tašāra=xu bol=bou,
変な　ことが ある。　話をする　前に　ただ　間違えないか、

6 endöüre=kü bol=bou ge=ǰi tataγalǰ=ād yerü eris t[..] [kele]lče=kü tengkē ügei.
誤らないだろうかと　ためらって、全然　きっぱりと 話す　自信が ない。

7 iyimi bayi=tala, nama+yigi yaγa=ǰi kele= ge=nei. nada sur=xu sanān yerü bayi=ǰi.
こんなでいて、　私に　どうして話せと言うか。私には学ぶ気が全くなくなった。

8 sana=xana yamar ǰüyil+ēr sur=ba ču, basa ene bitür bayi=tuγai neme=ǰi čida=xu
思えば　どんなやり方で 学んでも、やはりこの程度だろう。　進歩できる

9 ge=ǰiü. ene čöm čini ese das=u=qsan xariya. bi čima+du ǰā=ǰi kele=kü.
だろうか。」「それはすべてあなたが慣れなかったためだ。私はあなたに教えて言う。

10 ken ken či bitügei bodo=. yerü toḳōldu=qsan+i üǰe=ǰi erē ügei kele=.
誰でも　構うことはない。ただ 見かけた人に会って　遠慮なく話しなさい。

5a2　kele=seyini ：語尾は不明。TM の満洲語は gisurere be「話すことを」。『語録』は kele=seini と同じ語形であるが、『初学』には kele=sen+i「話したことを」とある。

5a6　t[..]：『語録』には tes、『初学』には tasu とある。

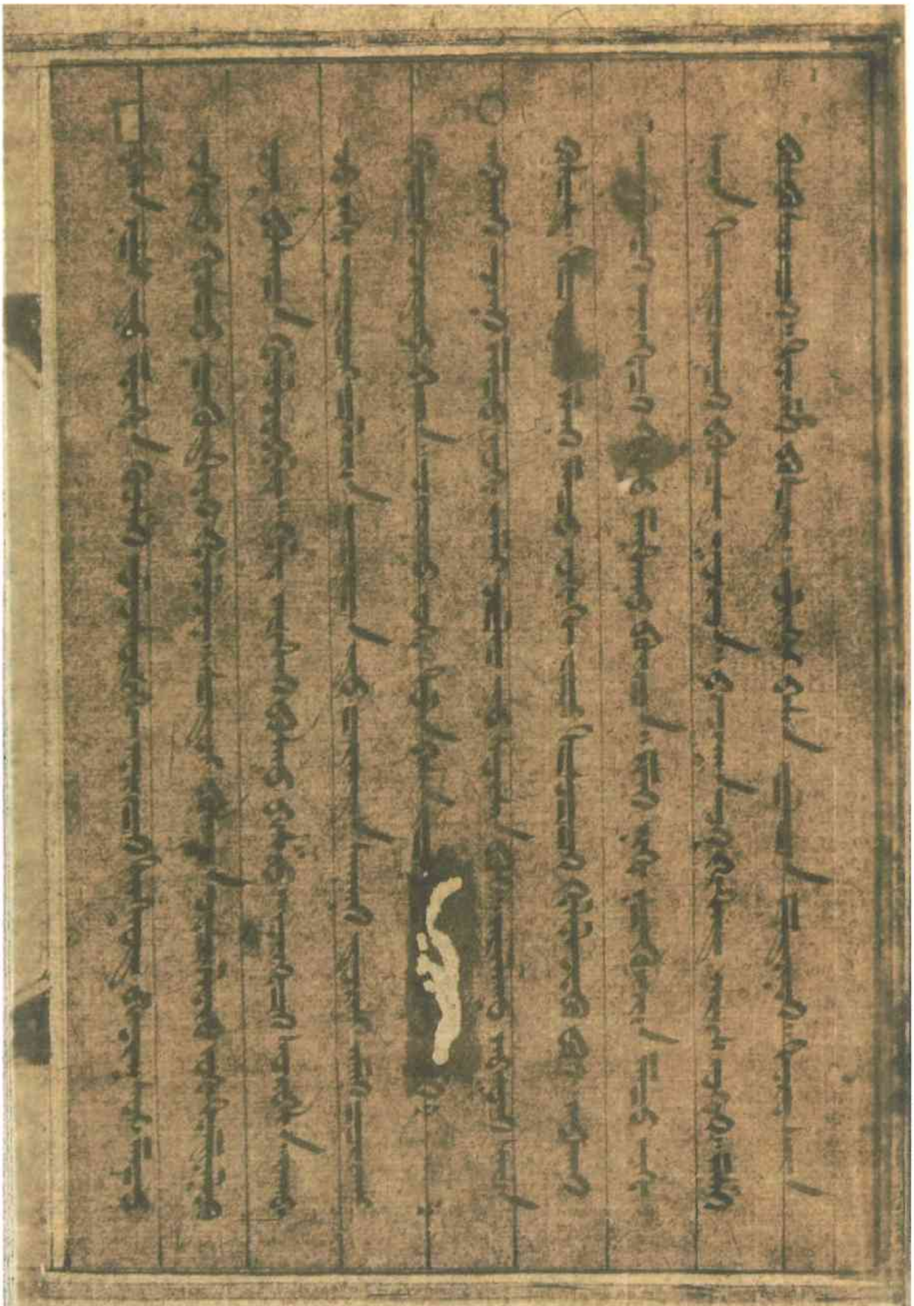
5a6　[kele]lče=kü ：『語録』には kelelce=ku、『初学』には kelelce=hu とある。

5a8　ene bitür bayi=tuγai ：TM の満洲語には ere hūman dabala とあり、浦・伊東［1957：169］は「この手並みだけだ」としている。bayi=tuγai は書き換えた跡があり、元の字形は buyiǰa に見える。『語録』には ene bitur boidza、『初学』には ene bitur buije とある。

5a9　xariya ：TM の満洲語には haran「ため、故」とある。

図 13. トド文字一百条（5b）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



5b

1 basa nom-du mergen güüši ulus+uyigi eri=ǰi tangγud bičiq sur=.　manǰ'u
また 経書に 通じた 先生たちを　捜して チベット語を 学びなさい。満洲

2 üge+dü kečöü nöküd+tei kelelče=. ödür bolγon čēǰile=kü üge　temdeqle=kü
語に　強い 友人たちと話しなさい。毎日　暗記する 言葉を 記しなさい。

3 čaq bolγon kelelče=bele, kele ayitai bol=xu bišiü. eyige=ǰi sur=bala, yaγa=ba
常時　話せば 舌が滑らかになるではないか。このようにして学べば、どうして

4 ču nige xoyor ǰil+iyin xōron-du ǰayān+dān sanān+ai dur+ār aman+i ǰoriγ+ār
も 一 二 年の　間に　自然に　心の思うままに 口のめざすままに

5 kele=ǰi čida=xu baxana. čida=xu ügei tula　basa you ǰo[bo]=xu　bui :: . ::
話すことができるのだ。できないからといって また 何を 悩むことがあるか。」

【第7話】(TMの第37話、『語録』『初学』の第3話)

6 abaγai čini　manǰ'u üge yamar čolo-du sur=san bui. ayalaγu ab=xu*ni sayin
「兄上、あなたの 満洲語は　どのような暇に学んだのか。発音するのが　上手

7 bol=ōd, todo.　mini manǰ'u üge-gi you tōčo=ǰi kelelče=kü bui.　abaγai
で、　明瞭だ。」「私の 満洲語を　何に数えて 言うことがあるか。兄上は

8 xayirla=ǰi eyige=ǰi ketü maqta=xu buyiǰa. mini nige nökür+iyin manǰ'u üge
慈しんで そのように 過分に褒めるのだろう。私の 一人の 友人の　満洲語は

9 sayin todorxoi bol=ōd xurča. bičixan či kitad ayis ügei.　maši
上手で 明瞭であって　鋭い。少しも　漢語 なまりがない。とても

10 bolbosur=ǰi. teyimi bol=ōd, üliger basa olon mede=nei.　tere saya
熟達している。さらに、　昔話 も　沢山 知っている。彼　こそ

5b5 baxana：この語は2a7にも現れるが、いずれもTMの満洲語は kai「～だぞ」が対応しており、文末語気詞として確認を表している。これに対応するモンゴル文語形は baqan_a「罢了，而已」(《蒙汉词典》[1999：412]) である。baxa(1a2)の注釈も参照。

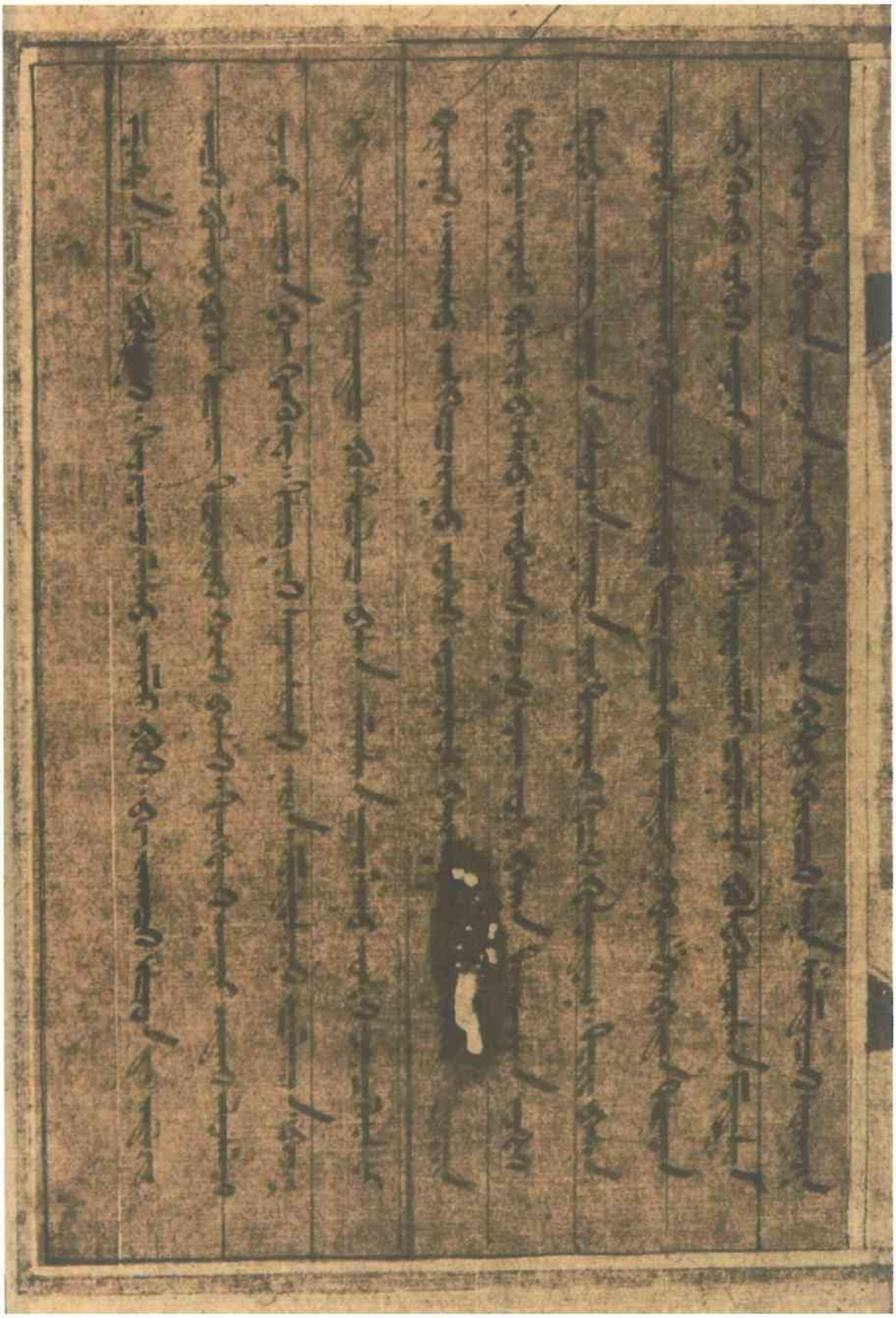
5b5 ǰo[bo]=xu：『語録』には jobo=hū、『初学』には joba=hūとある。

5b7 todo：書き換えた跡がある。下の句点（二点）の一つの点が欠けている。

5b7 you tōčo=ǰi：「何をいいものと見なして」の意。

図 14. トド文字一百条（6a）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



6a

1 mergen ge=ǰi bol=o=nai. tere čim+āsu yamar bui. bi yaγa=ǰi töün-dü adlid_
賢いと言える。」「彼はあなたと比べてどうか。」「私がどうして 彼に 比べ

2 xa=ǰi bol=xu bui. tong töün+ei kiri biši. tenggeri γaǰar adali alusla=ǰi
られようか。 とても彼の 比ではない。 天と 地の ように かけ離れている。

3 učir youn bi ge=küne, töün+ei sura=su*ni narin. mede=se*ni olon. bičiq-
その理由は何かと言えば、彼の 学んだことは詳しい。知っていることは多い。書物

4 tü duratai, odō bol=tolo, basa aman+āsan ǰayila=xu ügei čēǰile=sēr
が 好きで、 今に至る も 口から 離れずに 暗記して

5 bayi=nai. γar+āsu angkiǰira=xu ügei üǰe=sēr bayi=nai. töün+iyigi güyiče=ya
いる。 手から 離さず 見ている。 彼に 追いつこう

6 ge=bele, ünēr berke bišiü. abaγai čini ene üge bāxan tašāra=san ügei
と言えば本当に難しいではないか。」「兄上、あなたのその言葉は少し間違っていない

7 ge=nüü. čing ünen bol=xulā, xada nebter=nei ge=ǰi kele=deq. tere basa
か。 真剣に なれば 岩を 貫く と言う。 彼も また

8 sur=či čida=qsa*ni buyiǰa. yerü törölki mede=kü*ni biši. bida töün-
学んでできたのだろう。 決して生まれつき知っていたのではない。私たちが彼

9 dü kür=kü ügei γaǰar xā bui. tere yamar ǰüyil+ēr bolbosur=san mede=sen
に 到達できない所はどこにあるか。彼が どんなに 熟達し、 知って

10 bol=tuγai, bida γaqča sedkil+i čingγa batu bari=ǰi sanā šimda=ǰi sur=xuna
いるとしても、私たちはただ 心を しっかりと 持って、心をこめて 学ぶならば、

6a1 bol=o=nai ： 書き換えた跡がある。二番目の o の字形は他の箇所と異なる。

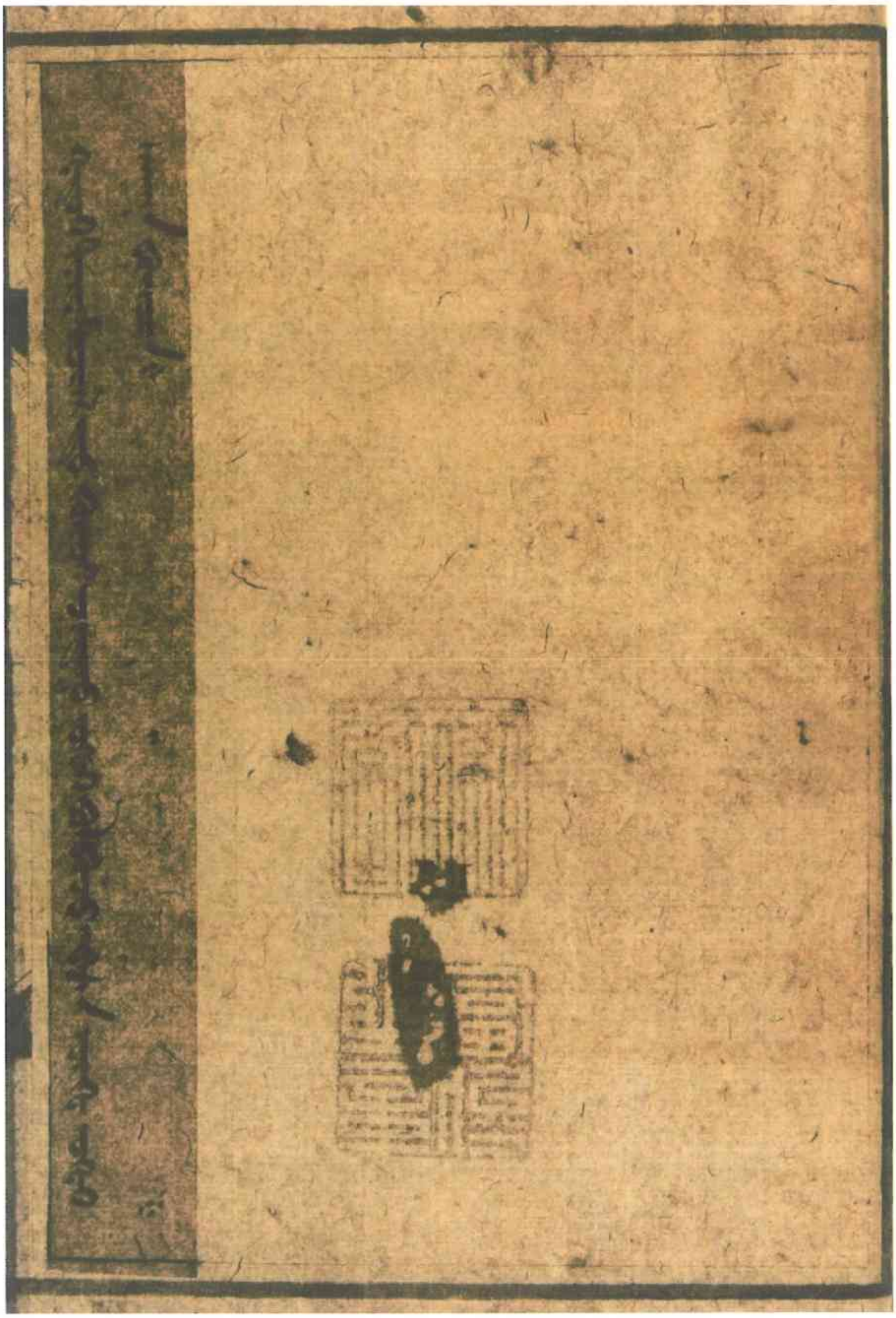
6a3 sura=su*ni ： TM の満洲語には tacihangge「学んだこと」とある。sur=su*ni(3b3)と同じ語形と考えられるが、語幹末に母音字 a が書かれている。

6a2 alusla=ǰi ： この語で文が終わるが、その後に句点がない。

6a5 güyiče=ya ： 語尾と語幹は母音調和に合わない。

図 15. トド文字一百条（6b）

1　2



6b

1　kedüi tere tüyil-dü kür=či čida=xu ügei bol=boču, basa erke ügei
　いくらその 極みに　 達することができなくても、　 また 必ず

2　šaxa=na buyiǰa.
　近づく　だろう。」

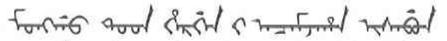
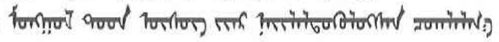
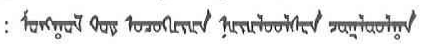
6b1　tüyil-dü : モンゴル文語 tuyil「極」に対応するオイラート文語の第1音節は女性母音である（确正扎甫・巴德玛［1979 : 305］）。

注

(1) 富俊（1749 ～ 1834）は、姓は卓特、字は松巖。蒙古正黄旗人で、清の乾隆、嘉慶、道光の三朝を通して、翻訳進士から内閣大学士まで昇進した官僚である。彼の経歴は『清史稿』（巻三百四十二、列傳一百二十九）や『清史列傳』（巻三十四）、『続碑傳集』（巻二）などによって知ることができる。

(2) 李徳啓［1933: 29］、黄润华・屈六生［1991 : 102］、北京市民族古籍整理出版规划小组办公室满文编辑部［2008 : 63-64］、等。

(3) 八省区蒙古语文工作协作小组办公室［1979 : 222-223］、および《中国蒙古文古籍总目》［1999 : 1179-1180］、等。

(4) 満洲語、モンゴル語、オイラート文語をそれぞれ原文字で写せば次のとおりである。
満洲語：
モンゴル語：
オイラート文語：

(5)「序」の原文は満洲語、モンゴル文語、トド文字、漢語の四種類の言語を並べている。訳文は主としてモンゴル語により、他の言語を参照した。次に漢語の原文を挙げる：
「(1a)稽古六書之作，原有諧聲假借轉注諸法，(1b)而其義要歸於同，故曰同文．清書蒙文字體少別，(2a)而大畧相仿，前以清文繁博，間遇舊語新話，(2b)初學未能遍記．一時查對無門，爰承(3a)先大夫志，輯三合便覽一書，集新舊諸(3b)清語，以十二字頭次序排纂，俾翻簡者，(4a)瞭如指掌，迨已【己】亥歲富俊成蒙古進士，授禮(4b)部額外主事，多有餘暇，因憶蒙文尤夥，查考不易，(5a)遂將蒙文亦依十二字頭次序羅列成編，聊供採擇．(5b)惟蒙文中有種托忒字，本係準噶爾厄魯特之文．自我(6a)朝平定準噶爾後，餘黨部落投誠分駐伊犁科布多等處，定以(6b)朝覲班次，恒有文牒往來，辯者較少．乾隆(7a)四十七年，軍機大臣，(7b)奏請在京設立托忒學，蒙古八旗各置學生一名，使之肄(8a)業．童而習之，獲以儲才待用，制甚善也．丙辰(8b)春富俊奉命參贊科布多事務，(9a)塞清政簡．不敢怠荒．嘗於公餘，訪求善曉托忒字體之(9b)人，偕與考論，依式摹繕．恐後學遽難口熟，(10a)首列蒙文，次以清文釋音，次托忒字，次清(10b)語，而以漢字居末，遥分五格，層層印證，閱(11a)歲告成．盖蒙文字無圈點，非口授不能得其音．(11b)托忒者即蒙古語明白一字也．因以蒙古托忒彙集名編．(12a)從事於斯者，展卷易知，不無裨益(12b)云爾，是爲序．嘉慶丁巳孟春(13a)崧巖富俊書.」

(6)《中国蒙古文古籍总目》[1999：1180] では、こうした名前の物語が付されていると記している。原文は「図3.トド文字字母表（2a)」の第7行（最終行）を参照されたい。

(7) 栗林均・斯欽巴図［2009］は、この発表をもとに加筆補正したものである。

(8)『tanggū meyen（一百条)』について、『三合語録』の序文には「乾隆年間に智信が清語百条を編纂した」とある。

(9) 浦廉一・伊東隆夫［1957］は『tanggū meyen（一百条)』の解題、諸本の比較、全篇のローマ字転写と日本語訳である。『tanggū meyen（一百条)』の類書として、満洲語と白話体漢文の対訳である『清文指要』がある。

(10) 同書の閲覧、撮影、公刊の許可をいただいた北京大学図書館、さらに閲覧に際してご助力いただいた北京大学外国語学院の姚克成（Yao Kecheng）副教授に感謝の意を表します。

(11) ローマ字転写方式は、サンボードルジ・橋本［2005］による。原本の破損で判読困難な箇所は［ ］に入れた。また、図3の下部に、満洲文字で読み方を示す書き込みがある。これを【 】に入れた。

(12) 以下、本稿で引用するトド文字は、印刷の都合上反時計回りに90度回転させた形状で示す。トド文字のフォントは、新疆ウイグル自治区の印刷物に使用されている字体を見本に作成したものである。

(13) 破擦音を表す4種類の文字が使われる場合、それらは次のように区別される。（サンボードルジ・橋本［2005：94]、伦图［2003：127 131]、カッコ内は発音を表す)。

	無声	有声
歯茎音	c（[ts]）	z（[dz]）
硬口蓋歯茎音	č（[ʧ]）	ǰ（[dʒ]）

しかし、とのの2種類の文字しか使われていない場合、ローマ字転写には2種類のやり方がある。その第1は、同じ字形を同じローマ字で転写するやり方で、をǰ、をčと転写する。第2は、オイラート語の発音を考慮して、をiの前ではǰに、それ以外ではzに転写し、同様にをiの前ではčに、それ以外ではcに転写するやり方である。（サンボードルジ・橋本［2005：93]、Лувсанбалдан［1975：31]）。本稿では、第1の転写方法を取った。

(14) surγuuli「学校」では、子音字の後で、の字形が使われ、さらに母音字の連続でという表記になっている。

(15)《蒙文和托忒蒙文》[1976：172] では (čölōn)「空闲（暇)」と女性語として表記される。Б.Х.Тодаева［2001：429, 444］には цоло と чөлөөн（いずれも意味は свободное время「暇」）という2種類の表記がある。

(16) モンゴル語で bari bari=γsaγar は、「当即，立即」の意味で使われる（《蒙汉词典》［1999：438]）。この熟語に対応するオイラート文語は bari=qsār である（确正扎甫・巴德玛［1979：110]）。

参考文献

<欧文>

P.G. von Möllendorff　1892

A Manchu Grammar, with Analyzed Texts, American Presbyterian Mission Press.

Б.Х.Тодаева　2001

Словарь Языка Ойратов Синьцзяна, Калмыцкое книжное издательство, Элиста.

<日本語>

浦廉一、伊東隆夫　1957

「TANGGŪ MEYEN（清話百条）の研究」『廣島大学文学部紀要』第12号、75-277。

栗林均・呼日勒巴特尓編　2006

『「御製満珠蒙古漢字三合切音清文鑑」モンゴル語配列対照語彙』東北大学東北アジア研究センター。

栗林均・斯欽巴図　2009

「『初学指南』と『三合語録』におけるモンゴル語の特徴－満洲文字表記モンゴル語会話学習書の口語的特徴－」『日本モンゴル学会紀要』第39号（2009）、1-13頁。

斯欽巴図・栗林均　2008

「『三合語録』におけるモンゴル語の言語的特徴について－満洲文字表記モンゴル語会話学習書の口語的特徴－」2008年度日本モンゴル学会春季大会研究発表。

<中国語>

北京市民族古籍整理出版规划小组办公室满文编辑部编　2008

《北京地区满文图书总目》辽宁民族出版社。

春花　2006

「论《蒙古托忒汇集》的语言学价值」《卫拉特研究》2006年第1期、62-70页。

春花　2008

『清代满蒙文词典研究』（中国蒙古学文库）辽宁民族出版社。

黄润华・屈六生编　1991

《全国满文图书资料联合目录》书目文献出版社。

李徳啓　1933

『満文書籍聯合目録』国立北平図書館・故宮博物院図書館。

銭儀吉　1893

『続碑傳集』江蘇書局校刊、光緒十九年。

『清史列傳』　1928

上海中華書局、民国十七年。

趙爾巽等撰　1997

『清史稿』、中華書局

<モンゴル語>

Х. Лувсанбалдан　1975

Тод үсэг, түүний дурсгалууд. БНМАУ Шинжлэх ухааны Академи Хэл зохиолын хүрээлэн.

O.サンボードルジ、橋本勝　2005
　『オイラト・モンゴル文語概説（*Тод монгол үсгийн бичгийн хэлний тойм*）』大阪外国語大学。
八省、区蒙古语文工作协作小组《蒙文和托忒蒙文》编写组编　1976
　《蒙文和托忒蒙文（[illegible]）》新疆人民出版社。
八省区蒙古语文工作协作小组办公室编　1979
　《全国蒙文旧图书资料联合目录（[illegible]）》内蒙古人民出版社。
加・伦图　2003
　《卫拉特方言与托忒蒙文（[illegible]）》新疆人民出版社。
内蒙古大学蒙古学研究院蒙古语文研究所编写　1999
　《蒙汉词典(增订本)（[illegible]）》、内蒙古大学出版社。
确正扎甫、巴德玛等编写　1979
　《蒙文和托忒蒙文对照 蒙语辞典（[illegible]）》新疆人民出版社。
晓春　2006
　「从《蒙古托忒汇集》看满文切音（[illegible]）」《卫拉特研究》2006 年第 4 期、88-93 页。
晓春　2007
　「从《蒙古托忒文[ママ]汇集》看十九世纪蒙古语口语特征（[illegible] 19 [illegible]）」《语言与翻译》2007 年第 2 期、3-9 页。
《中国蒙古文古籍总目》编委会编　1999
　《中国蒙古文古籍总目（[illegible]）》北京图书馆出版社。